



09 行目で評価を行っている。また、この評価は同意を求める形になっており、Sはそれに対して10-11 行目で同意を示している。01 行目より報告(とその背景事情)として生み出された語りについて評価がなされ、それに対する語り手自身の同意も産出されたこの時点は、構造的に09-11 行目の隣接ペアの連鎖が完結する位置であると同時に、01 行目からの語りとその評価の連鎖全体が収束してもよい位置に至ったとみることができる。そのような位置でNによって産出された「へー」は、直前の隣接ペアへの反応というより、直前の語りが報告としてなされたという理解を示し、語りとそれに対する評価の連鎖全体を受け止めた反応として産出されているとみなされる。

また、語り連鎖が完結可能な位置に至ったという話者の理解は、話者の身体的ふるまいからも確認できる。Nは12 行目で笑いを産出する時に視線をSに向けていたが、「へー」を言ったとたんに視線をSからずらし、右のほうに向け始める。また、0.5 秒の間合い(14 行目)の間、NとSはお互いに視線を合わせず、別の方向を見ている。さらに、15 行目でNは「ホテルはどうしようね」と新たな話題を提供し、新たな連鎖を開始した。新たな連鎖が開始されたことも先行する語り連鎖が収束されたというNの理解を示している。

### 3. 2 一連の連鎖の全体への反応として使用される「へー」

断片(2)の前でNとSはSが入社する予定の寮の生活について話していた。

#### (2) 【N&S\_住宅手当】

01N: え:でもあれでしょ, 住宅手当は出るでしょ.	12S: いといけない.
02 (0.2)	13 (0.3)
03S: 住宅手当が(.) どんくしのうちは出ないんだよ.	14N: えでももし一人暮らししたいってなったら, 自費で
04N: あそうなの. [じゃ早く結婚するしかないね.]	15N: [できるでしょ.]
05S: [うん]	16S: [そうそうそう]
06S: そう.	17 (0.8)
07 (1.2)	18N: でも安いんじゃない野田ら辺.
08N: え::[::, あじゃ独身のやつ寮入れ[みたいな感じなんだ.]	19S: うん, 多分つくばと変わらないよね.
09S: [そうなんだよね.] [そうそうそう]	20 (1.3)
10 (0.4)	21->N: へ:::[::
11S: 独身のやつ寮に入るか, 自宅から通えるやつは通わな	22S: [や:ばかったよ.(0.3) なんもなかった本当に]

Nは01 行目でSに住宅手当のことについて質問する。Nはここで「でしょ」という形式を用いて、自身の推測したことについて相手に同意を求めている。この推測に対して、Sは03 行目で「独身のうちは」という条件付きの部分的に否定する答えを産出している。Sのこの答えに対して、Nは04 行目で「あそうなの」と理解を示した。そして、その続きで、「じゃ早く結婚するしかないね」とさらにSの答えを踏まえた上での意見を出している。この意見に対して、Sは06 行目で「そう」を用いて同意を示している。この同意に対してNは4 回うなずいて(07 行目)Sの反応を受け止める。1.2 秒の間合いの後にNは08 行目で「え:::」ともう一回03 行目のSの答えに反応を示し、その続きで「独身のうち」に関連する質問、「独身のやつ寮入れみたいな感じなんだ(08 行目)」、「一人暮らししたいってなったら、自費でできるでしょ(14-15 行目)」を行った。この2つの質問に対して、Sはそれぞれ肯定的応答をした(09-12, 16 行目)。これらの質問を踏まえて、Nは18 行目でSが入社される予定の「野田」での「一人暮らし」について「安いんじゃない」と確認を求めている。それに対して、19 行目でSはまず「うん」と確認を与えて、さらに2人が在住している「つくば」との比較を出して根拠づけている。Sの応答に対して、Nは20 行目で3 回うなずいてそれを受け止めた。

ここで注目したいのは18-19 行目の隣接ペアの連鎖とそれまでの一連の質問-答えの連鎖との違いである。01-16 行目で行われている質問-答えの連鎖は全てNがSに対して何か情報を聞き出すやりとりとなっており、それに対して、18-19 行目のやりとりはそれまでの情報を踏まえてN自身が理解したことをSに確認しているものになっている。このことから、Nは18 行目の時点で03 行目のSによる否定的応答について、それまでのやりとりを通してより具体的な理解に到達しており、その点(会社が住宅手当を出さないという点)については、17 行目以降でそれ以上追及していないことがわかる。18-19 行目のやりとりは、01 行目より開始された一連の連鎖で語られていることについてはこれ以上展開しないこと、つまり、ここで、01 行目から開始された連鎖を収束してもよい位置に至ったことを示している。そのような位置に話者Nが「へー」を用いることでそれまでなされてきた一連の連鎖にどのように受け止めたかを示し、それによって、一連の連鎖を相互に認識可能な仕方でも収束させるとみられる。

また、断片(1)と同様に、話者の身体的ふるまいも一連の連鎖が収束したという認識を示している。NはSに質問する側として20 行目まで視線をSに向けたままであるが、「へー」を言う時に視線をSからずらして右のほうに向け始める。そして、Sは19 行目で「つくば」を言った時点から視線をNからずらして下に向けている。NとSは視線をお互いにそらす

<sup>1</sup> 会談収録時、NとSは2人ともつくばに在住している。Sは野田市にある「キッコーマン」という会社の内定をもらっている。

ことから、2人とも先行する連鎖が収束していいことに志向していると考えられる。さらに、22行目でSが「やばかったよ」を言い、野田の状況を語り始めようとし、新たな連鎖を開始した。このことも先行する一連の連鎖が収束されたことの裏付けとなっている。

下記の断片(3)も断片(2)と同様の現象が見られる。断片(3)では、NとSは働いた後の貯金のお話をしている。

### (3) 【N&S\_貯金】

01N: しかも <u>ぜったい</u> さ:働き出したらお金めっちゃもらえるし	21S: でも飲み会が多いじゃないやっぱこういうとは。
02S: うんそうだよ。	22S: [お客さんとの飲み会だったり先輩との飲み会だったり
03 (0.7)	23N: [°うん°
04S: 今年は[借金出れば( )]	24N: でも毎日飲み会だとして:(0.3)大人だと一万いっくら
05N: [す:げたまららしいよ。	25N: 使うのかな。
06 (0.6)	26 (0.2)
07S: でも:(0.4)あの:(0.3)アメフトのノハラはどんなに	27S: そんなに:?
08S: 働いても全くだまらん¥[つってたよ¥. hehehehe	28 (0.3)
09N: [hh hehehehe hhhhhh	29N: キャバクラとか行ったら[使うのかな
10N: .hhhh 銀行だっけ?	30S: [あ:::::
11S: そう。	31 (0.6)
12 (.)	32N: [若いのにね出してもらえないんだね[あんまり。
13N: なんで?	33S: [でも( ) [ね:そう.おごって
14 (0.3)	34S: もらえないんだ意外と。
15S: SMBC住友証券とか(の中に)	35 (1.1)
16 (0.2)	36->N: ^::::
17N: なんてたまない[の。	37 (2.6)
18S: [わかんない。	38N: で(0.7)大正製薬行ったときに
19N: なにに使う?	39 (0.5)
20 (.)	40S: おごってもらえた?

Nは01と05行目で働き出したらお金がたまるという主張を言っている。これに対して、Sは07-08行目で友人ノハラのお話を持ち出し、「反例」を出している。この「反例」について、Nはすぐに受け止めず、10行目でまずノハラ就職先を確認し、確認が得られた後に13行目から一連の質問をし続けている(17, 19, 24-25行目)。これらの質問を通して、NはSからノハラについての情報を聞き出している。また、それらの質問を踏まえて、Nは32行目でこれまでのやりとりとは異なり、Sから何か新しい情報を聞き出すというより、「若いのにね出してもらえないんだねあんまり」と自身の理解を示している。また、この理解の発話は確認を求める形式になっており、33-34行目でSはNが示した理解に確認を与えている。この確認のやりとりの後に、1.1秒の間合いが生じ、その後「へー」が産出されている。このように、この断片からも「へー」の直前の隣接ペアとそれまでの一連の質問-答えの連鎖の違いが見られる。32行目でNは情報を要求するより、自身の理解を示すことから、07-08行目でSによって出された「反例」についてさらに追及しないことがわかる。また、その理解が確認される(33-34行目)ことによって、それまでの一連の連鎖がもう収束していい位置に至っていることがわかる。

また、断片(2)と同様に一連の連鎖が収束に向かっていることは話者の身体的ふるまいからも確認できる。35行目まではNはSの聞き手としてふるまい、視線をSに向けたままであるが、35行目で2回うなずいた後にすぐに宙に向け始める。また、Sは30行目から視線をずっとテーブルの虫の方に向けている。36, 37行目でNとSが特に視線を合わせないことからここで連鎖全体が収束していい位置に至っていることに志向している。さらに、38行目よりNによって新たな話題が提供され、新たな連鎖が開始されたとみられる。このことから36行までは一連の連鎖が収束されたことがわかる。

断片(2), (3)を通して、一連の連鎖の開始部分で話者間で意見のずれが生じ、続いてそのずれを解消するやりとりが行われ、最終的に「へー」によって連鎖を収束させることが確認できた。次の断片(4)は、断片の開始部分で意見のずれではなく、認識のずれが見られる例となる。断片(4)ではCとKはK(看護学類の学生)のアメリカ留学について話している。

### (4) 【N&S\_留学】

01C: えっそのさん <u>しゅ</u> うかん留学するのが	11C: ^:::::
02C: [普通に勉強しに行くってこ[と?	12 (1.0)
03K: [うん [うんそう°よ°.	13C: [全然勝手が違うようなイメージなんやけど。
04 (1.0)	14K: [°うん°
05C: 看護の勉強するの?	15K: う:ん(.)たぶん全然違う気がする。
06K: うん	16->C: °^::::°
07 (0.2)	17 (0.8)
08C: [え::::	18K: なんか(0.2)でもそれをすごい楽しみだし,今英語の勉強
09K: [向こうの病院で。	19 (.)
10 (0.2)	20C: お:

01 行目でCはKに留学について質問をしている。Cの質問に対して、Kは03 行目で「うんそうよ」と端的に肯定的に答えている。CがKに留学についてさらに語らせようとし、05 行目でより具体的な質問、「看護の勉強するの」を聞いた。その質問に対して、Kは06 行目で「うん」と肯定的に答え、また09 行目で続けて「向こうの病院で」とさらに情報を付け加えている。ここで興味深いのはCの08 と11 行目の反応が異なっていることである。「看護の勉強するの」の質問に対して肯定の答えが得られた後にCは8 行目で「え:::」と受け止めている。それに対して、追加された「向こうの病院で」に対してCは11 行目で「へ:::」と8 行目の反応と比べて驚いた反応を示している。この驚いた反応はCの表情からもわかる。08 行目ではCはKをただ見つめながら「え:::」を産出しているが、11 行目で目を大きくして表情も徐々に笑顔になっていった。Cがなぜここで異なる反応をするかについて述べておきたい。09 行目で追加された「向こうの病院で」という情報はKが向こうの病院で「実習する」ことが含意される。Cにとって看護学類の学生であるKがアメリカに留学しに行って、そこで看護の勉強をすることは容易に想定されるが、向こうの病院で「実習する」ことは容易に想定されないことだと考えられる。それによって、Cはこの2か所で異なる反応をしていると思われる。1.0 秒の間合いの後に13 行目でCはそれまでのことを踏まえて「全然勝手に違うようなイメージなんだやけど」と自身の理解を述べている。これに対して、Kは15 行目で「うん、たぶん全然違う気がする」とCの理解に同意を示している。ここで注意したいのはKの答えの仕方である。Kは「たぶん」「気がする」のような不確定な言葉遣いを用いてこのトピックについてこれ以上具体的に語ろうとしていないことを示している。つまり、13 行目より開始された隣接ペアがここで収束可能な位置に至ることがわかる。そして、そのやりとりの直後に「へー」が産出されている。

この断片も確認しておくべきこととしては、断片(2)、(3)と同様に、16 行目の「へー」の直前の隣接ペアは何か相手に情報を聞き出すやりとりではなく、話者が理解したことの確認のやりとりとなっている点である。つまり、それまでは話者の間で実質的に新たな情報の提示と受け止めがなされ、連鎖が続いているが、最終的にそこまでの質問と応答の連鎖を通して理解されたことの確認のやりとりとなると、話者はこれ以上連鎖を展開させないことがわかる。つまり、ここで一連の連鎖が収束に向かっていることが相互に認識可能となる。そのような位置に用いられる「へー」は断片(2)、(3)と同様に一連の連鎖の全体に反応を示している。また、それによって、一連の連鎖の全体が収束され、新たな連鎖に移行する準備が整えられる(18 行目)。

#### 4. まとめ

以上4つの断片を用いて、なぜ「へー」が連鎖全体への反応として理解可能なのかを分析してきた。断片(1)-(4)に共通してみられるのは「へー」の直前のやりとりはそれまでなされてきたことを踏まえて話者が理解したことについて確認するものである。そのやりとりから会話参加者がそれ以上連鎖を展開させないこと、つまり連鎖を収束させようとすることは分析を通して確認できた。「へー」はそのような連鎖全体が収束してよい位置に産出されている。また、分析を通して、話者はこのような特定な位置に「へー」を用いることによって、先行する連鎖全体をどのように理解し、どのように受け止めたかを示してその連鎖の特徴づけを行い、それによって、先行する連鎖を収束させ、次の新たな連鎖を開始することを可能にすることを明らかにした。

それでは、なぜ連鎖全体が収束可能な位置に至った後に他の形式ではなく、「へー」が用いられるだろうか。その理由として、連鎖全体の中に「へー」の産出者にとって何か想定外のことがあるいは価値があることについてのやりとりが含まれていることが挙げられる。断片(1)では、語り手Sが語りの背景を説明する際に「テッシーの実家は九州にある(04-05 行目)」の情報を提供し、受け手Nは「あそうなの」と意外性を表している。断片(2)と(3)では、断片の開始部分で「へー」の産出者が相手に反対の意見がされて、その後そのずれについてやりとりが行われている。また、断片(4)では、「へー」産出者が相手に予想外の情報(「向こうの病院で」)を提供され、それによって連鎖が続いている。このように、断片(1)-(4)で共通して「へー」の産出者にとって何か想定外あるいは価値のあることについてやりとりが行われていることが確認できる。この点について今後連鎖全体が完結する可能な位置に至った後に用いられる「へー」以外の形式との比較を通して検証していきたい。

#### 参考文献

- Iwasaki, Shoichi (1997). *The Northridge earthquake conversations: the floor structure and the 'loop' sequence in Japanese conversation*. *Journal of Pragmatics* 28, 661-693.
- Mori, Junko (2006). *The workings of the Japanese token hee in informing sequences: An analysis of sequential context, turn shape, and prosody*. *Journal of Pragmatics* 38, 1175-1205.
- 富樫純一 (2005). 「へえ」「ほう」「ふーん」の意味論 大修館書店, 34(11), 22-29.